



<https://twitter.com/fctokyoofficial>



<http://line.me/ti/p/@fctokyo>



<https://www.instagram.com/fctokyoofficial>



<https://www.tiktok.com/@tokyodorompa>



<https://www.youtube.com/user/fctokyochannel>



<https://www.facebook.com/fctokyo>

<https://www.fctokyo.co.jp>

F

C

FC TOKYO
ACTIVITY REPORT



T O K Y O

ごあいさつ TOP MESSAGE

東京が熱狂

こんにちは。代表取締役社長の川岸滋也です。
FC東京は、2023シーズンにクラブ設立25周年を迎えました。1999シーズンに創設初年度のJ2リーグに参入し、翌2000シーズンにJ1リーグに昇格しました。一度降格の憂き目にあったものの、この四半世紀の多くをJ1で戦って参りました。実は、J2から参入したチームとしては最も長いJ1在籍(23年)となっております。ひとえに、FC東京に関わっていただいた様々な方々の応援、ご支援の賜物だと思っております。誠にありがとうございます。

FC東京は2023年3月に、ホームタウンである東京都と「ワイドコラボ協定」を締結しました。FC東京の活動ができるのも、ホームタウンとの密な関係や連携、協創があってこそであります。「ワイドコラボ協定」の締結はひとつのマイルストーンであり、今後のクラブの方向性を定義づけるものです。また、出資をいただいている6市(府中市、三鷹市、調布市、小平市、西東京市、小金井市)とは、創立期より二人三脚で歩んで参りました。引き続き6市との関係を基盤として、クラブの発展に取り組んで参ります。合わせて、味の素スタジアム近隣の狛江市や国分寺市、京王線沿線地域となる杉並区、世田谷区、渋谷区、新宿区を中心とした23区自治体とも連携協定締結をはじめ様々な取り組みを推進しており、より広いエリアにおいて地域に貢献できるよう努力して参ります。もちろん、都内全域をホームタウンとして、島しょ部も含めた様々な活動も引き続き継続して参ります。スポンサーも90社を数えるまでになりました。FC東京は、その母体を作った東京ガス様をはじめとした関係先企業の力強い応援によって過去から現在に亘って支えられてきました。また近年は我々の活動やその価値に着目いただき、スポンサーも着実に増えており、様々な業界に及んでいます。FC東京では、2024シーズンより「スポンサー」という呼称を改め、「パートナー」とお呼びします。クラブの活動

や発展のために、スポンサーの存在は欠かせません。そのためにも、スポンサーに寄り添い、スポンサーの活動を我々もサポートしていく。そのような関係を築いていきたいと考えます。その関係こそ、「パートナー」であると思うからであります。

3年ほど続いたコロナ禍の傷もようやく癒えてきました。そこで、新たな目標を設定すべく「FC東京VISION2030」を策定しました。「FC東京=東京」となることをコンセプトに、世界都市TOKYOを背負うクラブとして、アジアに、世界に轟くクラブを目指そうというものです。2023シーズンはその取り組みの1年目となり、延べ約50万人の方々にスタジアムへ足を運んでいただきましたし、Jリーグの中では、JリーグID会員登録数が圧倒的NO.1の約50万人となりました。また、国立競技場で行った試合では、新しい顧客層に出会うことができました。今後も、味の素スタジアムをベースにしながら、国立競技場も活用して、より多くの方々がFC東京に触れていただけるように、施策を総動員して実現して参ります。

ファン・サポーターをはじめとして、ホームタウン、パートナーのみなさまのご支援があつてのFC東京であります。あらためて感謝申し上げます。みなさまをFC東京ファミリーと呼ぶならば、そのファミリーとしてまず目指すのは、J1リーグ優勝です。それが何よりもみなさまへの恩返しだと思っております。リーグ優勝に向けて、そしてそれを通過点だったと思えるよう、クラブ一丸となって取り組みます。FC東京を引き続きよろしくごお願い申し上げます。

東京フットボールクラブ株式会社
代表取締役社長

川岸 滋也



MANIFESTO/SLOGAN マニフェストとスローガン

千年の魂が宿る、歴史の街なみ。
未来の姿が浮かび上がる、喧騒の都心。
いろいろな表情を見せる東京の地を、ぼくたち、私たちは、前へ前へと進んでいく。
ボールをつなぐ。前に。その先に。
人から人へ、そして次の世代へ。
原動力は、東京が放つ強烈なエネルギー。
批判を恐れず、新しいことを試そう。
国内の、世界の、あらゆる知識と経験を、この東京の地に集結させて。
どんなことだって、必死でやるから、面白い。
挑戦と試行錯誤が生み出すエンターテインメント。
ピッチの上で、ピッチの外で。
東京が熱狂。

東京が熱狂

MISSION ミッション

FC東京は首都・東京をホームタウンとして、「スポーツの力」を東京中に、そして日本中に届け、日本を代表するクラブを目指します。

1

フットボールを中心に、東京のスポーツ人口の拡大に寄与し、誰もが日常的にスポーツに親しみ、楽しむことのできる社会を実現していきます。

2

スポーツの魅力を人々に伝え、その心を動かすことによって、一人一人の毎日が少しずつ豊かに彩られる世の中を目指していきます。

3

クラブが発信するスポーツの魅力が、人と人、想いと想いを繋ぐ媒介となり、人や地域のネットワークに新たな連鎖を生み出し、コミュニティのさらなる発展に寄与していきます。

4

社会や地域と連携・協力を図り、未来の担い手である青少年たちがスポーツを通じてその可能性を広げることができる世界を創造していきます。

VALUE バリュー

最前線

仕掛ければ、なにかが起きる。
首都・東京の名を背負うに相応しいクラブであるためにFC東京は常に自ら動き、仕掛けていくことを意識します。
能動的に動き、新しい道を切り拓く。
人とアイディアが集うこの東京から、大きなエネルギーを放ちます。

クリエイティビティ

変容する未来にも、トップランナーであるために。既成概念にとらわれない発想力で、FC東京は進化を続けます。リスクを恐れず、批判を恐れず、大胆に新しいことを試し続けること。そのピッチの上で、誰も見たことのないものが生まれるように。

多様性

歴史と近未来が隣接し、伝統文化と最新テクノロジーが共存する東京。全国各地、そして世界各地から人々が行き交うクロスロード。その東京を舞台に、FC東京は多様性を誇るクラブであり続けます。
先入観にとらわれず様々な分野から卓越したものを集め、その化学反応によって、あっと驚くエンターテインメントを生み出します。

可能性

人口減少が続く日本にあって、東京は年少人口が増え続けている数少ない地域のひとつです。
休むことなく成長を続ける東京。その潜在力は無限大。常に新しい才能が生まれ、首都を牽引する原動力となっていく。FC東京もまた、現状に満足することなく無限の未来を模索します。明日の担い手たちが夢を見続けられる世の中のために。

会社概要



会社名 東京フットボールクラブ株式会社
TOKYO FOOTBALL CLUB Co., Ltd.
創立 1998年10月1日(都民の日)
主な事業 1. プロサッカーチーム「FC東京」(1999年よりJリーグディビジョン2に加盟)の運営
2. サッカースクールおよびサッカーの普及活動
3. チームのオリジナルグッズの製作・販売

資本金 1,762,000,000円
総発行株式数 46,740株
株主 計358団体(344社・14団体)

主な株主 (株)MIXI、東京ガス(株)、三菱商事(株)、ENEOS(株)、清水建設(株)、(株)きらぼし銀行、三井物産(株)、東京メトロポリタンテレビジョン(株)、東京電力ホールディングス(株)、(株)テレビ東京、(株)ファミリーマート、横河電機(株)、(株)プロ・フィットスポーツイング、(株)みずほ銀行

※2023年7月1日時点

1999年のJリーグ参入から、2023シーズンで25周年の節目を迎えたFC東京。
ファン・サポーターとともに歩んだ軌跡を振り返ります。

2004

ヤマザキナビスコカップ



2009

ヤマザキナビスコカップ



TITLES

主な獲得タイトル

青赤軍団の躍動が東京を熱狂させる

2012

天皇杯



2020

YBCルヴァンカップ



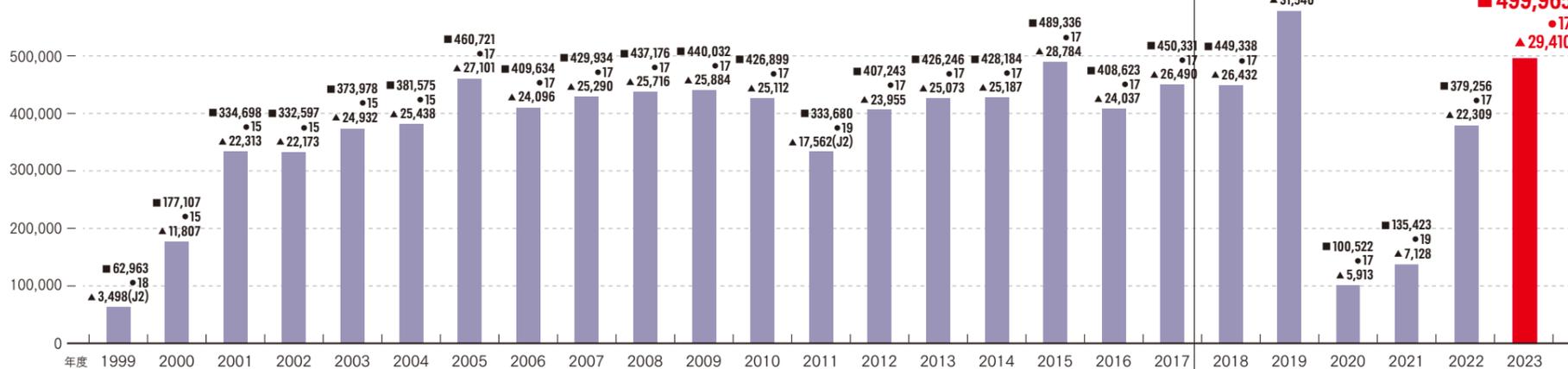
- ▶ 2004 Jリーグヤマザキナビスコカップ 優勝
- ▶ 2009 Jリーグヤマザキナビスコカップ 優勝
- ▶ スルガ銀行チャンピオンシップ2010 優勝

- ▶ 2011 Jリーグディビジョン2 優勝
- ▶ 第91回 天皇杯全日本サッカー選手権大会 優勝
- ▶ 2020 JリーグYBCルヴァンカップ 優勝

来場者数推移

VISITORS DATA

■入場者数(人) ●試合数(試合) ▲平均(人)



TOPICS

2023年5月12日(金)国立競技場の試合ではクラブ史上ホーム最多来場者数となる56,705人を達成。

クラブの歴史

1935	前身である東京ガスサッカー部(のちに東京ガスフットボールクラブ)創部。
1986	東京都リーグより関東リーグに昇格。
1991	全国地域リーグ決勝大会で優勝。JSL(日本サッカーリーグ)2部へ昇格を果たす。
1992	JFL(ジャパンフットボールリーグ)に加入。
1997	JFL準優勝。天皇杯でJリーグ勢を3連破し、準決勝へ進出。
1998	JFL初優勝。Jリーグディビジョン2(J2リーグ)に参入決定。10月1日「都民の日」に東京フットボールクラブ株式会社を設立、東京初のJリーグクラブが誕生。ヤマザキナビスコカップベスト4進出。
1999	チーム名を「FC東京」に改称。J2リーグ戦では2位の成績で、1シーズンでJ1リーグ昇格を決める。ヤマザキナビスコカップベスト4進出。
2000	J1リーグ初年度は1stステージ6位、2ndステージ8位の総合7位。
2001	東京スタジアム(現 味の素スタジアム)開業。
2003	レアル・マドリード(スペイン)とクラブ初の国際親善試合を開催。
2004	ヤマザキナビスコカップ決勝で浦和レッズにPK戦の末勝利し、クラブ初タイトル獲得。
2008	クラブ設立10周年を迎える。
2009	ヤマザキナビスコカップ決勝で川崎フロンターレに勝利して2度目の優勝。チームマスコット「東京ドロンパ」が初登場。
2010	スルガ銀行チャンピオンシップでLDUキートン(エクアドル)に勝利しタイトル獲得。J1リーグ最終節で京都サンガF.C.に敗れ16位となり、J2リーグ 降格。Jリーグアウォーズにて「最優秀育成クラブ賞」を初受賞。
2011	J2リーグで優勝、1年でのJ1リーグ復帰を果たす。「フェアプレー賞」を受賞。第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会決勝で京都サンガF.C.に勝利して初優勝。AFCチャンピオンズリーグ(ACL)出場権獲得。アジアへの扉を開く。
2012	FUJI XEROX SUPER CUP 2012に初出場。初めてのアジアへのチャレンジとなったACLはラウンド16に進出も広州恒大(中国)に惜敗。
2014	J1リーグ戦においてクラブ新記録となる14試合無敗を達成。
2015	J1リーグが2ステージ制を導入。J1リーグ1stステージ2位、2ndステージ6位、年間4位。ACLプレーオフ出場権を獲得。
2016	ACLはラウンド16進出も上海上港(中国)にアウェイゴール差で惜敗。J1リーグ1stステージ9位、2ndステージ9位、年間9位。FC東京U-23を編成してJ3リーグに参入。初年度10位。
2017	J1リーグ13位、J3リーグ11位、ルヴァンカップベスト8。Jリーグアウォーズにて2度目の受賞となる「最優秀育成クラブ賞」および「フェアプレー賞」を受賞。
2018	クラブ設立20周年、J1リーグ6位、J3リーグ14位、天皇杯ラウンド16進出。J1リーグ、J3リーグで「フェアプレー賞」を受賞。
2019	J1リーグ 2位、J3リーグ 16位、ルヴァンカップ 準々決勝進出。ACLプレーオフ出場権を獲得。FC東京が「フェアプレー賞高円宮杯」を初受賞、FC東京U-23が「フェアプレー賞(J3)」を受賞。
2020	YBCルヴァンカップ決勝で柏レイソルに勝利し、11年ぶり3度目の優勝を果たす。J1リーグ 6位、ACL ラウンド16進出。
2021	J1リーグ 9位、ルヴァンカップ ベスト4。
2022	J1リーグ6位。クラブJ1リーグ通算1,000ゴールを達成
2023	クラブ設立25周年。J1リーグ11位、ルヴァンカップ準々決勝進出、天皇杯ラウンド16進出。2024シーズンからのクラブエンブレムの変更を発表。3度目となる「最優秀育成クラブ賞」を受賞。(最多タイ)



FC TOKYO

エンブレム

ロゴ

チームマスコット

TEAM MASCOT

「東京ドロンパ」

1998年10月1日、港区麻布狸穴町(まみあなちょう)で生まれる。六本木と東京タワーのほぼ真ん中に位置する狸穴町、いわゆる生粋の都会っ子である。遊び場はもちろん噴水の素敵な狸穴公園。知らぬ間にパッと現れ、ドロンといなくなることから、いつしか仲間から「東京ドロンパ」と呼ばれるようになった。



Tokyo Dorompa

東京=FC東京

FC東京のホームタウンは「東京都」全域です。スタジアムを中心として株主としてご支援いただいている6市(府中市・三鷹市・調布市・小平市・西東京市・小金井市)をはじめ、23区、そして島しょ部まで含めた都内全域でさまざまな活動をしています。

1. 事務所

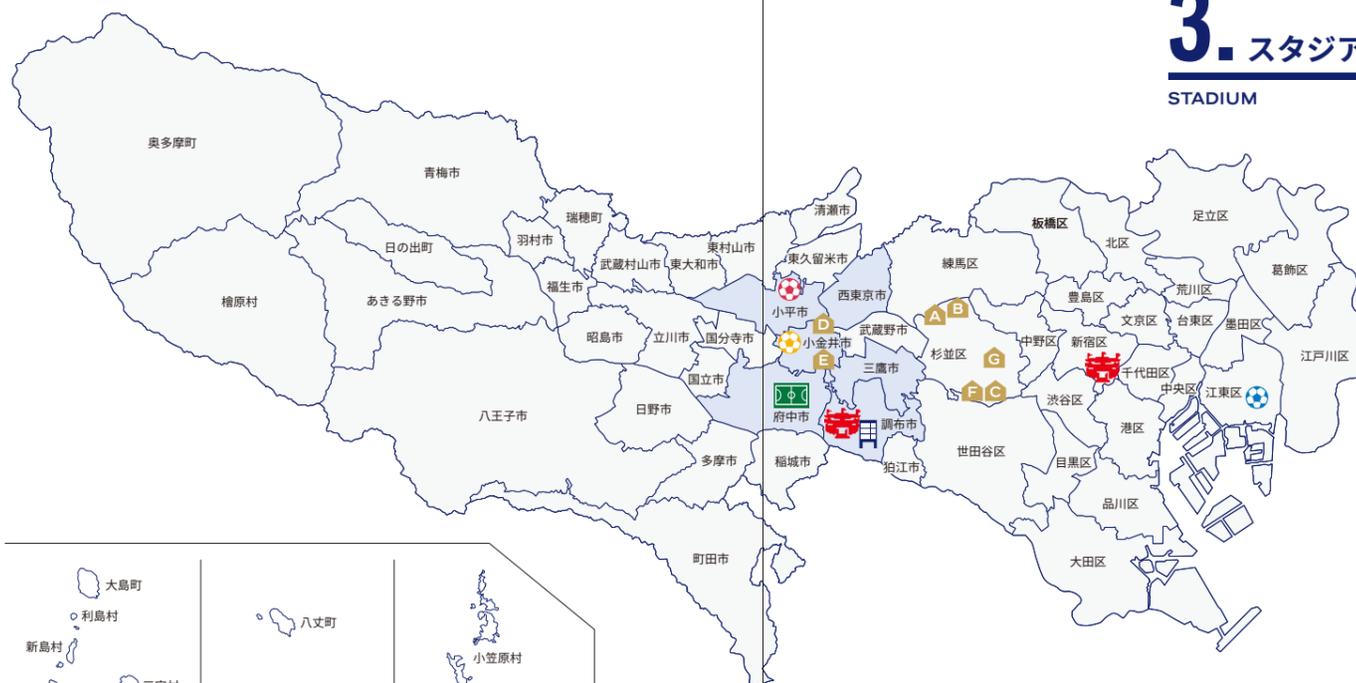
OFFICE

調布事務所
東京都調布市下石原1-2-3 TSOビル TEL.042-444-2630

深川グラウンド U-15深川
東京都江東区猿江2-15-10

小平グラウンド トップチーム U-18
東京都小平市大沼町3-14-1 東京ガス武蔵野苑内

U-15むさし



3. スタジアム

STADIUM



味の素スタジアム
[住所] 調布市西町376-3
[収容人数] 48,013人



国立競技場
[住所] 新宿区霞ヶ丘10-1
[収容人数] 67,750人



FC東京パーク府中
府中市宮町1-41-2 ミッテン府中屋上
TEL.042-314-1380

2. 指定管理施設

DESIGNATED MANAGEMENT FACILITY



TAC杉並区上井草スポーツセンター
杉並区上井草 3-34-1
TEL.03-3390-5707



TAC杉並区妙正寺体育館
杉並区清水3-20-12
TEL.03-3399-4224



TAC杉並区永福体育館
杉並区永福1-7-6
TEL.03-3328-3146



小金井市総合体育館
小金井市関野町1-13-1
TEL.042-386-2120



小金井市栗山公園健康運動センター
小金井市中町2-21-1
TEL.042-382-1001



杉並区下高井戸運動場/区民集会所
杉並区下高井戸3-26-1
TEL.03-5374-6191(運動場)
03-5374-6192(集会所)



杉並区松ノ木運動場
杉並区松ノ木1-3-22
TEL.03-3311-7410

TOKYO

HOMETOWN ACTIVITIES

東京都との連携

2023年3月、ホームタウンである東京都と包括連携協定「ワイドコラボ協定」を締結しました。本協定はスポーツ分野に限らず、東京都が複数の政策分野にまたがって包括的・横断的な連携・協力を行うことにより地域社会の発展と都民サービスの更なる向上を図るためのもので、FC東京は全体では13例目、スポーツチームとしては初の締結となりました。協定締結をきっかけに、FC東京の4つのバリュー「最前線」「クリエイティビティ」「多様性」「可能性」を活かして、首都・東京のさらなる発展と都民サービスの向上に協力しています。



東京都との連携: スポーツ

新国立競技場での試合観戦を親子で体験できる観戦優待企画を2試合で実施し、約1,300名の方に非日常のスタジアムの雰囲気を楽しんでいただきました。約5万人が入ったスタンドの熱気とスポーツの楽しさを感じていただくことができました。また、パラスポーツの普及啓発や体験会などにも協力しています。



東京都との連携: 生活

「やさしい日本語」やボランティア活動の普及啓発、伝統文化としての銭湯の利用促進PRなど、都民の生活を豊かにする活動に協力しています。



東京都との連携: 多文化共生

ウクライナから都内に避難されている方々をホームゲームに招待し、2試合で70名以上の方々に試合観戦やピッチ練習見学を楽しんでいただきました。



東京都との連携: 人権啓発

長年継続しているホームゲームでの啓発グッズ配布やイベント参加を通して、多様性への理解を深めていただくためのPRを幅広く実施しています。



東京都との連携: 健康

がん検診の啓発や献血の呼びかけ、特設ホームページでのコラボレーションなど、都民の健康づくりのきっかけとなるPR活動を数多く実施しました。



東京都との連携: 福祉

児童虐待防止月間にあわせたオレンジリボンキャンペーンや「ヘルプマーク」普及啓発も、継続してPRすることで多くの方々に知っていただきました。



東京都との連携: 環境保護

東京都が進めている、電力を「H(へらす)・T(つくる)・T(ためる)」に賛同し、イベントでのPRや選手メッセージを都のサインボード等で放映しています。



HOMETOWN ACTIVITIES

さまざまな活動

FC東京のホームタウン活動では、老若男女問わずひとりでも多くの地域のみなさんが笑顔になる活動を数多く実施しています。このFC東京のホームタウン活動の理念に賛同いただいた企業・団体のみなさまは「ホームタウンサポーター」として支援してくださっています。



自治体表敬訪問
シーズン終了後の報告として、クラブを応援してくださっている自治体の首長や選手たちが訪問し、日ごろの支援への感謝と来シーズンへの意気込みを伝えました。



街のイベント参加・協力
コロナ禍の影響で中止となっていた街のイベントも少しずつ戻ってきて、キックターゲットなどのアトラクションをたくさんの子どもたちを楽しんでいただきました。



「あおあかドリル」制作・配布
小学校低学年の子どもたち向けの学校教材を今年も企画・制作し、都内の小学一年生約17,000名に配布したほか、FC東京のコーチによる実践授業も実施しました。



高齢者体操教室・フレイル予防講座
元気で健康に過ごすために、プロサッカークラブのノウハウを活かした高齢者のための体操教室や、健康診断受診やフレイル予防のきっかけづくりを行っています。



産業振興・商店街連携
地域のお店を応援する商工会や商店街のキャンペーンに協力し、観戦チケットやグッズプレゼント企画などを通して地域の活性化に取り組んでいます。



街路灯フラッグ掲出
都内各地の商店街で合計約2,500本の青赤フラッグを掲げて応援してくれています。高円寺の商店街には阿波踊りのシルエットが入ったコラボフラッグも登場!



小学校訪問
FC東京選手会が企画して実施する小学校訪問。今年は日程を2回に分けて春と秋に実施し、都内10市区の小学校計17校、約7,000名の児童とふれあいました。



SOCIAL COOPERATION 社会連携

Jリーグでは社会連携事業を「チャレン!」と呼び、各地域でのさまざまな社会課題に対して各クラブを「つかって」いっしょに解決するための活動を実施しています。FC東京も、たくさんの方と協力して、もっと幸せな東京になるように取り組んでいます。



インクルーシブフットボール



今年も年齢、性別、障がいの有無などに関係なく、誰もがいっしょにボールを蹴ることを楽しむ「まげごぜのサッカー」を開催し、約200名の方にご参加いただきました。サッカーを通じて協力しあうことで、お互いを理解して支え合うことの大切さを感じることができて、自然と笑顔が溢れるイベントになっています。



平和事業
調布市、株式会社渋谷不動産エージェントと連携し、次代を担う子どもたちが戦争の悲惨さや平和の大切さを学び、発信するきっかけづくりをしています。



更生保護活動
2016年から実施している多摩少年院でのサッカー教室のほか、12月には森重真人選手が院生に向けて「継続は力なり」をテーマに特別授業を行いました。



ゴミ拾い
地域の方々やスポンサー企業のみなさん、ボランティアスタッフ、スクール生などたくさんの方々と一緒に「ゴミ拾い」で街と心がきれいになります。



農業体験
三鷹市や狛江市の街なか農家での野菜づくり体験を通じて、地域の方やクラブスタッフの家族も土に触れて野菜をつくる奥深さと収穫の喜びを感じてもらいました。



センサリールーム
発達障がいや聴覚・視覚などに感覚過敏の症状があるお子さまとご家族が安心して試合を楽しんでいただける部屋をスタジアム内に用意しています。



復興支援活動
FC東京選手会有志による被災地訪問は3回目。今年も福島の小中学校を訪問したあと、復興の現状を視察して実際に見聞きし、自分たちにできることを考えます。



首都・東京らしい最上級のエンタメ空間

FC東京のホームゲームは首都・東京にふさわしい「斬新な演出」と「魅力的なエンタメ」があふれる非日常空間。既存のファン・サポーターはもちろん、初めて観戦される方も、海外からのお客さまも、家族連れもお子さまも、熱い試合とあわせて毎試合異なるさまざまなイベントを楽しんでいます。



LOOKING BACK 2023



25周年記念試合の開催

「都民の日」でありクラブ設立記念日でもある10月1日(日)に開催されたガンバ大阪戦では25周年記念試合を開催しました。当日は、これまででもクラブの節目にご来場いただいている東京スカパラダイスオーケストラのみなさんのスペシャルライブを実施したほか、スカイダンサーの復活や、特別映像の放映を行いました。

F.C.TOKYO 25th Anniversary
MIXI Day
2023.10.1.sun F.C.TOKYO vs GAMBA OSAKA



FAN COMMUNICATION DAY presented by JOYSOUND

11月12日(日)に、選手とのふれあいイベントを味の素スタジアムにて開催。SOCIOとOFFICIAL MEMBERSHIPの会員を中心とした約2,500名のファン・サポーターが来場し、サイン会やふれあいサッカーなどを通してコミュニケーションをとり楽しんでいただきました。



青赤ストリート

地域の方々や各団体和協力して飛田給駅からスタジアムまでを歩行者天国にして開催する「青赤ストリート」を、2023シーズンは2試合で実施しました。多彩なキッチンカーの出店や調布市と連携したステージイベント、選手トークショーなどでスタジアムまでの賑わいをつくりました。



東京ドロンパ BIRTHDAY PARTY supported by めちゃコミック

9月23日(土祝)サガン鳥栖戦では、チームマスコット「東京ドロンパ」の誕生日を記念して、アイドルグループの元アイドルリング!!!メンバーによる「アイドルリング!!!」や「わーすた」とコラボしたステージショーを開催するなど、たくさんの方にお楽しみいただきました。



「NO-PLANET, NO TOKYO」の開催

今年も地球環境やSDG'sをテーマにした「NO PLANET, NO TOKYO」を開催し、ワークショップやインクルーシブフットボール体験などの社会連携イベントを行いました。6月24日(土)名古屋グランパス戦では、再生素材を利用したキッズTシャツの配布や、クラブスポンサーによるSDG'sの取り組み紹介、東京都の電力節約のブース出展なども実施しました。



国立競技場での試合開催

5月12日(金)川崎フロンターレ戦ではJリーグでは初めて200機のドローンを使用した特別演出を実施、クラブ最多となる56,705名にご来場いただきました。また、8月26日(土)ヴィッセル神戸戦では特殊効果花火、ムービングライトやレーザーによる照明演出とあわせ、アーティストのyamaさんの試合前ライブでスタジアムを熱く盛り上げました。

AO-AKA PARK 場外グルメ&アトラクションの充実

青赤パーク開催

2023シーズンは、試合のチケットを持ってなくても誰でも楽しめるイベントを数多く実施しました。ワークショップやぬりえ、各種遊具で遊べる「TOKYO FAMILY DAY」(1)の開催や、ステージでのパフォーマンスやトークショー、緑日・お祭りの雰囲気味わえる「青赤夏祭り」(2)、パブルマシーンでのしゃぼん玉演出、夏場の試合ではウォーターライダー(3)を設置するなど、小さなお子さまやご家族みんなの思い出に残るようなイベント空間を創出しています。また、これまで青赤パークに出店いただいた店舗を対象とした「飲食総選挙」で選ばれたスタジアムグルメが集結した企画(4)をはじめ、「BEER FESTIVAL」「からあげParty」「激辛グルメフェス」などテーマを持った食のフェスティバルを実施して、多くの方に喜んでいただくことができました。



STADIUM GOURMET オリジナルグルメの開発



FC東京のホームゲームでしか味わうことのできないオリジナルグルメを多数展開しました。熟成ビーフとスパイス、国産の新鮮な野菜を取り入れた本格的なオリジナルブレンドカレーを開発し、中にはウィンナーを1本丸々使用した「FC東京WINNERカレーパン」は、チームの勝利への想いを込めて制作しました。(1)また、東京ドロンパの顔としゃぼん玉の形をした「東京ドロンパアイス」は、溶けにくいイチゴポリフェノールを使用して冷たさが長持ちする不思議なアイスで、子どもたちを中心に夏場のスタジアムでたくさんの方に楽しんでいただきました。(2)ほかに、幻の豚肉といわれる東京産の東京Xを使用した「FC東京X餃子」(3)や「東京ドロンパのペビーカステラ」などの特別感あふれるグルメを展開すると同時に、6月からは公式のスタジアム飲食店「F.C.TOKYO FOOD FACTORY」(4)をスタートさせ、青赤パークとあわせて限定メニューも含めたスタジアムグルメのさらなる充実を図っています。

ACADEMY (U-18、U-15)

アカデミー (U-18、U-15)

FC東京アカデミー出身選手



安部 柊斗 寺山 翼 木村 誠二
 バンゲルナガンデ 佳史扶 安斎 颯馬 ※JFA・Jリーグ特別指定選手 (2025年加入予定) 野澤 大志 ブランドン
 野澤 零温 熊田 直紀 依積 田晃太
 土肥 幹太 東 廉太 佐藤 龍之介



年代別日本代表



U-19 U-18 小林 将天 U-18 U-17 佐藤 龍之介 FIFA U-17ワールドカップ出場 U-18 U-17 永野 修都 FIFA U-17ワールドカップ出場 U-18 U-17 後藤 亘 FIFA U-17ワールドカップ出場 U-17 金子 俊輔 U-17 山口 太陽 U-17 U-16 菅原 悠太 U-16 佐々木 将英 U-15 田中 遥大 U-15 渡邊 麻舟 U-15 井部 結斗 U-15 新堀 恵太 エリートプログラム U-14 北原 稔 エリートプログラム U-14 相馬 陸人 エリートプログラム U-14 佐藤 蒼起 エリートプログラム U-14 橋本 凜太

これまでも数多くのプロサッカー選手を輩出しているFC東京の育成セクション。サッカーだけでなく人間としての成長を大切に指導しています。

FC東京U-18



- 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ 2023 EAST 10位
- 高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ2023東京1部 7位
- 第47回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 準優勝

FC東京U-15深川



- 2023年度関東ユース(U-15)サッカーリーグ1部 7位
- 2023年度関東ユース(U-13)サッカーリーグ1部Bリーグ 優勝
- 高円宮杯 JFA 第35回全日本U-15サッカー選手権大会 ベスト8

FC東京U-15むさし



- 2023年度関東ユース(U-15)サッカーリーグ1部 9位
- 2023年度関東ユース(U-13)サッカーリーグ1部Aリーグ 4位
- 第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 ベスト32

SOCCER SCHOOL & GRASS ROOTS ACTIVITY

普及活動

老若男女問わず、サッカーを通じて身体を動かす楽しさを感じてもらうためのプロのコーチが、鳥しょ部も含む東京都内全域でさまざまな活動を行っています。

1 あおあかドリル活用授業



学習指導要領に沿って子どもたちが楽しみながら身体を動かすことをコンセプトに制作した「あおあかドリル」をもとに、普及部コーチが小学校を訪問し体験授業を行いました。教育委員会と連携して教員向け活用研修も開催し、「あおあかドリル」をきっかけに子どもたちが運動に親しむ機会が増えるような取り組みを続けています。

6 サッカーフェスティバル・クリニック



2023年は東京ガス株式会社、株式会社大林組、株式会社ジークにご協賛いただき、サッカーの楽しさや喜びに触れることのできる機会を提供しています。

7 指導者講習会・夢授業



指導者や保護者の方を対象にした講習会や、子どもたちに夢や目標を伝えてもらうきっかけとなるキャリア講話「夢授業」を開催しています。

8 FC東京パーク府中での活動



FC東京が運営するフットサル施設。スクール活動やさまざまなスポーツイベントを開催し、老若男女、障がいの有無を問わず、多くの方にご来場いただいています。

2 キャラバン隊・キッズ巡回



教育委員会や東京都サッカー協会と連携して、普及部コーチが学校や園を訪問し実施しました。サッカーだけでなく、自立心の成長が感じられる体験授業です。

3 あおぞらサッカー・スクール・クリニック



知的障がいのある子どもたちを対象にしたサッカー教室や、定期的なサッカースクールを開催しています。都内各地に活動が広がっています。

4 おとなのサッカー・フットサル教室



大人(18歳以上)を対象としたサッカー・フットサル教室を開催しています。2023年はクラブ設立25周年を記念してFC東京のOB選手を招いて実施しました。

5 女の子・女性向けのサッカー教室



女性が気軽にサッカーやフットサルを始められる場として多くの女性に楽しんでいただいています。スクールにもガールズ・レディスクラスを設けています。

9 指定管理者/施設を中心としたさまざまな活動



FC東京は指定管理者やその協力企業として複数の公共体育施設の運営に携わり(施設詳細は6ページ)、幼児～成人、障がいの有る方など多様な方を対象に仲間と一緒に体を動かす楽しさを伝え、スポーツの普及活動に継続的に取り組んでいます。また地域への講師派遣や教育機関、イベント協力など施設を超えた活動も行っています。

10 サッカー・フットサルスクール

都内23箇所(スタッフ派遣校10校を含む)で行われている「サッカースクール・フットサルスクール」には、約4,300名の子どもたちが在籍しています。個人の技術・戦術面でのレベルアップはもちろん、あ・お・あ・か(挨拶・思いやり・諦めない・感謝)を合言葉に、自ら考え取り組みや仲間と協力する力も育みます。



FC東京サッカー・フットサルスクール FC東京サッカースクール アドバンスクラス FC東京サッカー・フットサルスクール 派遣校



2023 SEASON DATA

2023 シーズンデータ

コロナ禍を乗り越え、ファン・サポーターの大声援と青赤フラッグがスタジアムに戻ってきました。来シーズンのさらなる飛躍を目指します。

2023 順位・戦績

▶ 2023 明治安田生命 J1 リーグ

順位	クラブ名	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1	ヴィッセル神戸	71	21	8	5	60	29	31
2	横浜F・マリノス	64	19	7	8	63	40	23
3	サンフレッチェ広島	58	17	7	10	42	28	14
4	浦和レッズ	57	15	12	7	42	27	15
5	鹿島アントラーズ	52	14	10	10	43	34	9
6	名古屋グランパス	52	14	10	10	41	36	5
7	アビスパ福岡	51	15	6	13	37	43	-6
8	川崎フロンターレ	50	14	8	12	51	45	6
9	セレッソ大阪	49	15	4	15	39	34	5
10	アルビレックス新潟	45	11	12	11	36	40	-4
11	FC東京	43	12	7	15	42	46	-4
12	北海道コンサドーレ札幌	40	10	10	14	56	61	-5
13	京都サンガF.C.	40	12	4	18	40	45	-5
14	サガン鳥栖	38	9	11	14	43	47	-4
15	湘南ベルマーレ	34	8	10	16	40	56	-16
16	ガンバ大阪	34	9	7	18	38	61	-23
17	柏レイソル	33	6	15	13	33	47	-14
18	横浜FC	29	7	8	19	31	58	-27

ACL出場チーム J2降格枠

▶ 2023 Jリーグ YBCルヴァンカップ

順位	クラブ名	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1	ガンバ大阪	10	3	1	2	8	4	4
2	FC東京	10	3	1	2	9	5	4
3	京都サンガF.C.	9	3	0	3	9	11	-2
4	セレッソ大阪	5	1	2	3	2	8	-6

プライムステージ進出チーム

準々決勝 第1戦	味スタ	準々決勝 第2戦	ベスタ
FC東京 1-0 アビスパ福岡		FC東京 0-2 アビスパ福岡	

▶ 天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会

2023年 6月7日(水)	2回戦	味スタ	FC東京 3-1 福島ユナイテッドFC
2023年 7月12日(水)	3回戦	味スタ	FC東京 1-1 東京ヴェルディ (9 PK 8)
2023年 8月2日(水)	ラウンド16	えがoS	FC東京 0-2 ロアッソ熊本

ファン指標

● JリーグID(無料会員)登録者数



● 2023 Jリーグ平均入場者数



● SNS フォロワー数



※2023年12月時点

CLUB SPONSORS

クラブスポンサー

2023シーズンは92社のスポンサー企業のみならず、スタジアム内外でのさまざまな活動を通してお互いの価値向上を図ってまいりました。

▶ 2023スポンサー一覧



▶ スポンサーの考え方

2023シーズン、FC東京はスポンサー企業が持つ課題や目的を深く理解し、それに応じてスポンサーシップをご活用いただくことを重視してまいりました。結果として、各企業のニーズに合わせてカスタマイズされたソリューションを提供し、単なるスポンサーシップ締結を超えた価値を生み出すことができたと考えております。

FC東京の考えるスポンサーシップ



▶ スポンサー活動事例

2023シーズンにおける、企業様のスポンサーシップ活用事例の一部をご紹介します。これらの事例は、各スポンサー企業様の様々なニーズにお応えするために特別にカスタマイズをしてご提案させていただきました。これからも企業様との協力を通じて、効果的なスポンサーシップ活用を実現してまいります。

事例詳細はこちら



事例-1
ファーストパートナーズ 様
プロモーションへの選手起用



事例-3
企業同士の交流場創出
スポンサー企業様のビジネスネットワークの拡大



事例-2
アムタス(めっちゃコミック) 様
自社サービスのファンマーケティング貢献



事例-4
帝人フロンティア 様
ペットボトルの再利用プロジェクト